

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 28 年 10 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①③）

遠望観測では、11 日に白色の噴気が噴気孔上 20m まで上がりました（9 月：60m）。

・地震や微動の発生状況（図 2-②④、図 3）

火山性地震の月回数は 21 回（9 月：25 回）と、少ない状態で経過しました。このうち震源が決まったのは 15 回で、普賢岳付近の海拔下 1～3 km に分布しました。雲仙岳では、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっています。

火山性微動は 2006 年 11 月以降、観測されていません。



図 1 雲仙岳 平成新山の状況
(10 月 11 日、野岳遠望カメラによる)

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 11 月分）は平成 28 年 12 月 8 日に発表する予定です。この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局雲仙復興事務所（長崎県経由）、九州大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS¹⁾ 連続観測では、新湯－田代原、田代原－小浜（国）の基線で、2015 年 6 月頃からみられていたわずかな伸びの傾向は、2015 年 10 月頃から停滞しています。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

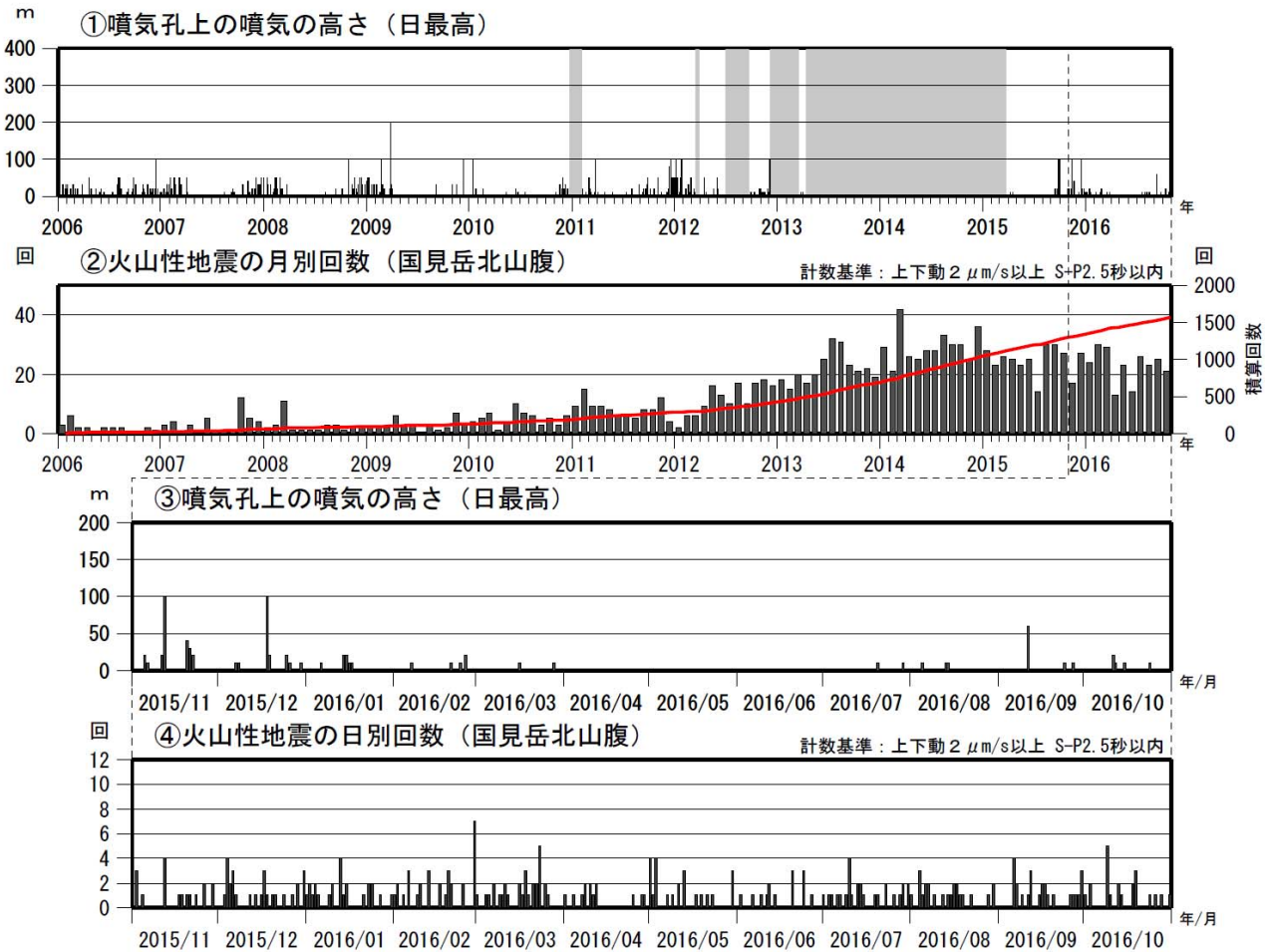


図 2 雲仙岳 火山活動経過図（2006 年 1 月～2016 年 10 月）

<10 月の状況>

- ・ 11 日に白色の噴気が噴気孔上 20m まで上がりました（9 月：60m）。
- ・ 火山性地震の月回数は 21 回（9 月：25 回）と、少ない状態で経過しました。
- ・ 長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっています。

火山性地震の回数については、2012 年 8 月 31 日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動 5 $\mu\text{m/s}$ 以上）で計数しています。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測を示しています。

②の赤線は地震回数の積算を示しています。

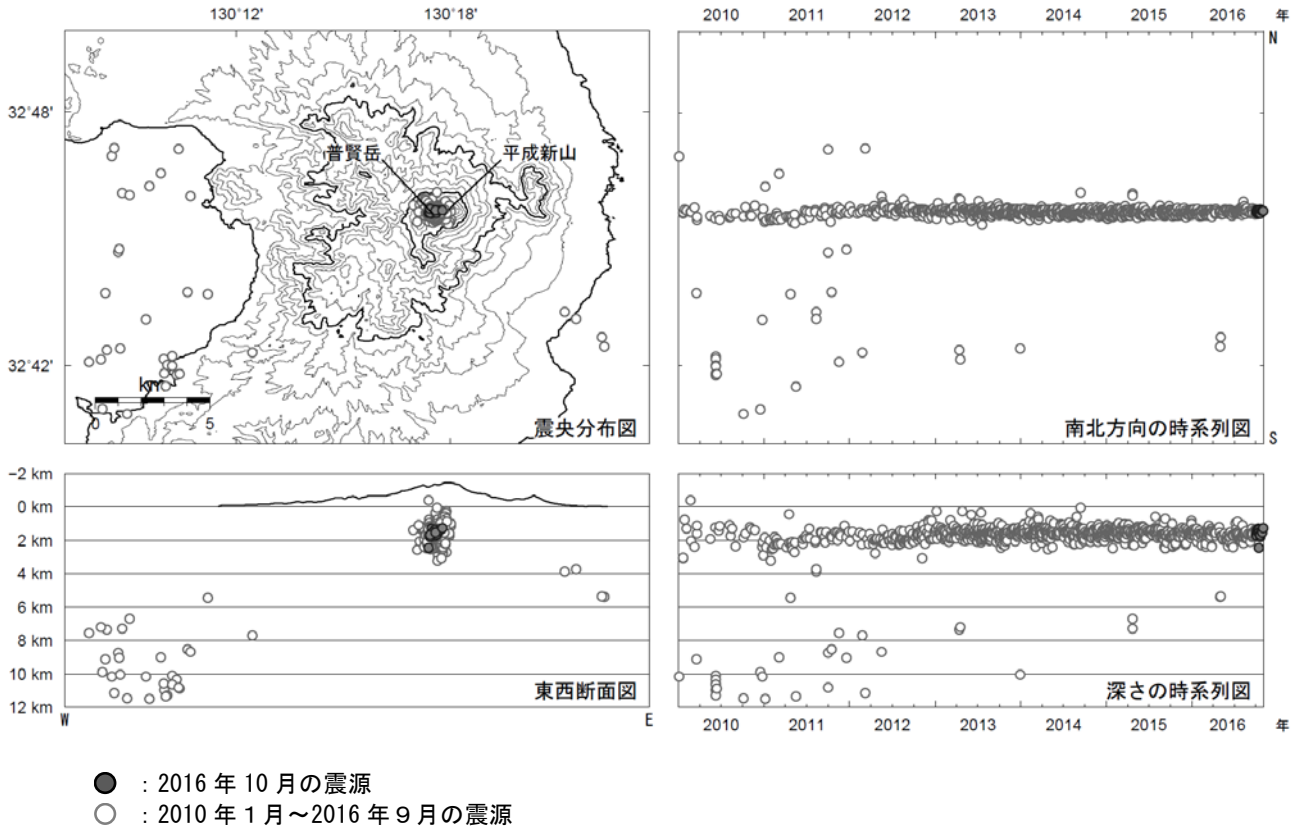


図3 雲仙岳 震源分布図（2010年1月～2016年10月）

<10月の状況>

震源は、音賢岳付近の海拔下1～3kmに分布しました。

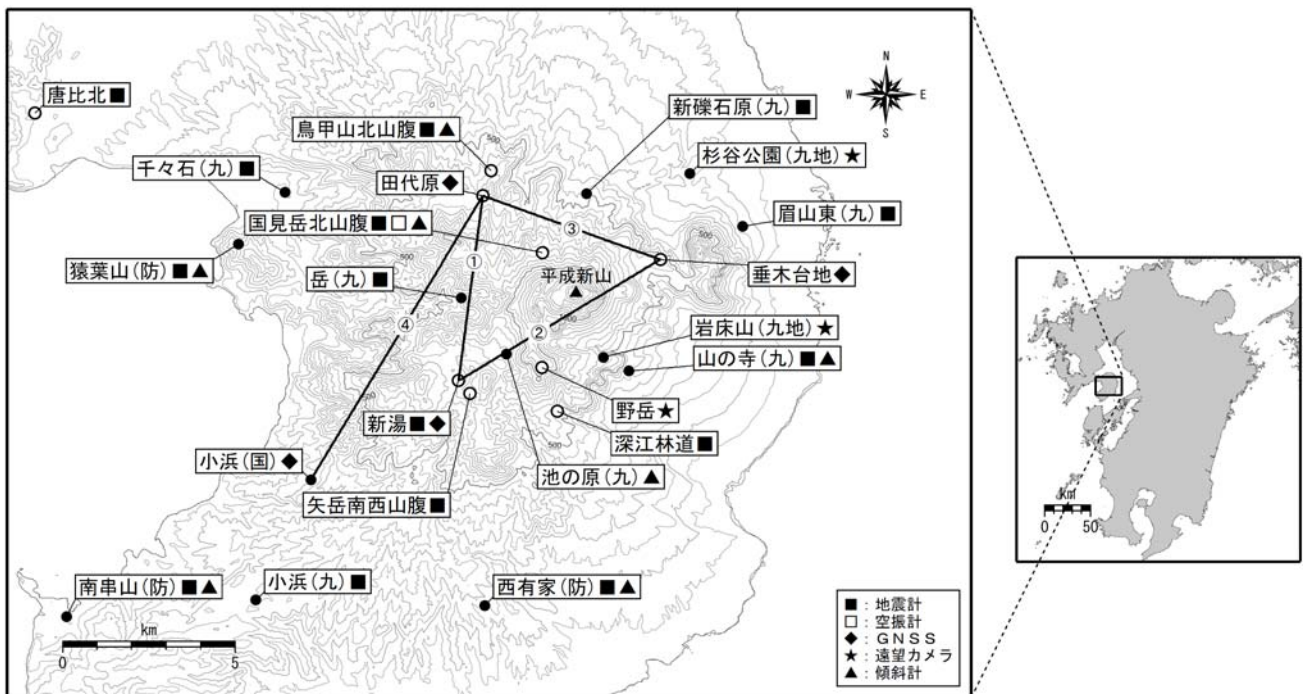


図4 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学、(防)：防災科学技術研究所

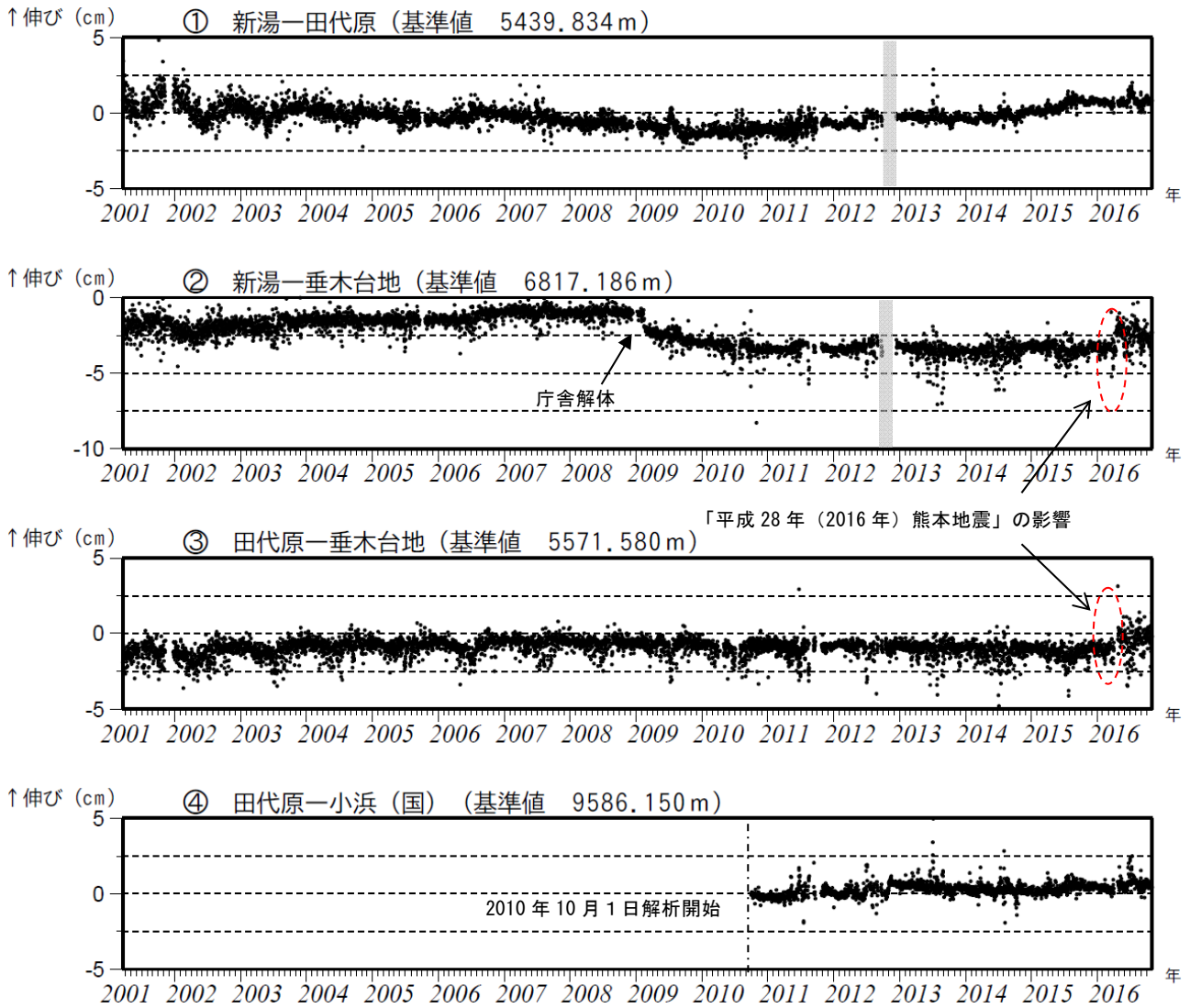


図 5 雲仙岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001 年 3 月～2016 年 10 月）

GNSS連続観測では、①新湯－田代原、④田代原－小浜（国）の基線で、2015 年 6 月頃からみられていたわずかな伸びの傾向は、2015 年 10 月頃から停滞しています。

この基線は図 4 の①～④に対応しています。

②の基線にみられる 2009 年 2 月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

（国）：国土地理院